

牛の運動器における創傷に対する アセチルヒドロキシプロリン含有クリームの治療効果

阪神基幹家畜診療所

○泉 弘樹 井上雅介 黒岩武信 笹倉春美
佐野 努 山崎 肇 芝野健一 嵐 泰弘

牛の運動器における創傷の治療法には、オムツを用いた保護療法やラップを用いた湿潤療法が報告されているが、細胞に働きかけ、創傷による欠損部位の組織再生を促す治療法を取り入れた報告はない。今回、牛の運動器における創傷に対し、アセチルヒドロキシプロリン（AHYP）含有クリームを使用し、良好な成績が得られたので報告する。

材料および方法

症例 1：ホルスタイン種乳用牛（3 産目）。初診時（9 月 4 日）、右飛節外腫自壊のためオムツにて被覆も状態良化せず、第 9 病日より AHYP2.5%含有クリーム（アイプクリーム、共立製薬）処置実施。

症例 2：3 ヶ月齢ホルスタイン種雌子牛。初診時（10 月 17 日）右後肢内側の蹄冠から球節にかけ広範囲の挫傷。腫脹著しく負重困難。第 2 病日よりアイプクリーム処置を実施。抗生物質は 5 日間全身投与した。

症例 3：1 ヶ月齢ホルスタイン種雄子牛。初診時（1 月 23 日）左後肢内側の蹄冠上部の刺創が化膿し、腔形成のためガーゼ充填。第 2 病日に新たな排膿を認めなかったため、アイプクリーム処置を実施。抗生物質は 7 日間全身投与した。

処置方法：アイプクリームを創面に塗布または注入し、被覆・保護した。以後数日おきに同様の処置を実施し、新たな皮膚の再生が創面の 90%以上に認められた時点で治癒と判定した。

結 果

症例 1：アイプクリーム処置は初回，7 日目，17 日目の計 3 回実施。17 日目で創面が 40%程度に縮小。処置後 27 日目に治癒と判定。

症例 2：アイプクリーム処置は初回，7 日目，14 日目，26 日目の計 4 回実施。14 日目で創面が 40%ほど縮小し，処置後 32 日目に治癒と判定。

症例 3：アイプクリーム処置は初回，5 日目，8 日目の計 3 回実施。5 日目には腔内に新生組織の増殖を認め，8 日目には腔内は新生組織で満たされ，腫脹も軽減した。

まとめ

アイプクリームの主成分であるアセチルヒドロキシプロリンは、蛋白質を構成するアミノ酸の 1 種であるプロリンを発酵法によりヒドロキシプロリンとし、アセチル化したもので、コラーゲン合成促進や細胞増殖を促す作用がある。また、生体に存在する成分で細胞毒性もなく休薬期間もない。運動器における創傷にアイプクリームを使用することにより、損傷部位の再生・増生を促し、治療期間の短縮が期待できると思われた。